特長1

部位・お口の中の状態に応じて使い分けられる

2種類の用毛・4アイテムの植毛

全ての毛先が細くしなやかで、
狭い部位に毛先が届く独自の
スーパーテーパード毛。

毛先拡大図

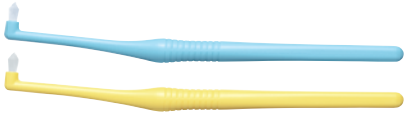
onetuft Systema

長めの毛を活かして、歯周ポケットケアや
（露出）根分岐部ケアに。

onetuft Systema Short

短めの毛により、目的部位に毛先をしっかり当てる
コントロール性とかき取り力がアップ。

しっかりとした刷掃力の**ストレート毛**で、
狭いところに入り込む**ペンシルカット**の毛切り。



onetuft M/S

歯肉に接する部位への当たり心地で使い分けできます。

特長2

持ちやすく動かしやすいハンドル

形 状： 持ちやすく、微妙な操作に対応できるラウンド状の
ハンドルです。

角 度： 5°内側に曲がったネック部は、歯の頬側（外側）や
舌側（内側）のプラークコントロールに適しています。

● 歯科医師・歯科衛生士の指導のもとにお使いください。

詳しい製品情報はコチラ

ジェル歯磨剤のご使用をおすすめします。

Systema薬用歯間ジェルや、Check-Upシリーズなどの
ジェル歯磨剤を一緒にお使いになり、
お口の状態、リスク部位に合わせて、
薬用成分を活かした組合せケアをおすすめします。

歯の定期健診を受けましょう。

ライオン歯科材株式会社

歯科用

DENT.

患者様用リーフレット

歯の定期健診を
受けましょう

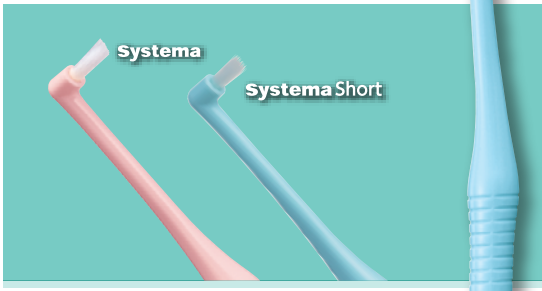
DENT. EX onetuft

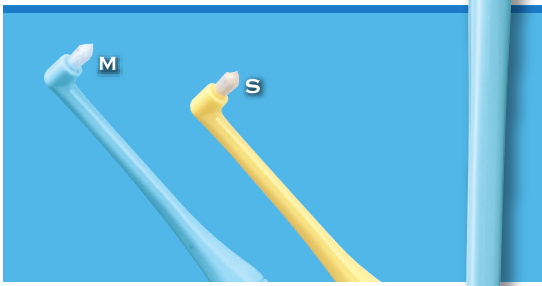
Systema・Systema Short・M・S
システマ　システマ ショート

ワンタフト

リスク部位のポイントケアに

通常の歯ブラシでは磨き残しがちな部位
（歯間部・歯と歯ぐきの境目）の部分清掃、
集中ケアにおすすめ。



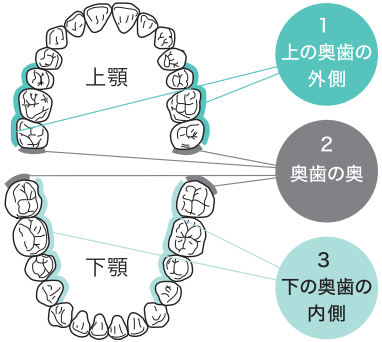


LION

通常の歯ブラシでは磨きにくい部位、磨き残しの多いリスク部位を、きちんと意識してしっかりポイントケア!

DENT. EX onetuft

頬や舌の影響でブラッシングしにくい部位



毛先が届きにくく、プラークの残りやすい部位

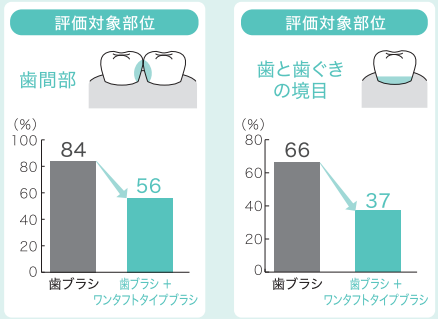
- 他にも歯周ポケットや、治療したブリッジ、インプラントの周りに加え、矯正用ブラケット周りなどもプラークが残りやすくなっています。

ブラッシングの課題は「磨き残し」。歯周病やムシ歯の原因となってしまいます。

- 通常の歯ブラシでちゃんと磨いたつもりでも、磨き残しがちな部位があり、放置すると歯周病やムシ歯の原因になります。
- 毛束が一つで狙った部位に毛先を届かせやすいワンタフトタイプブラシを使って、リスク部位をポイントケアしましょう。

通常タイプの歯ブラシに加え、ワンタフトタイプブラシの使用でプラーク付着率が低下

■ 歯ブラシ、ワンタフトタイプブラシを使用した場合の人工プラーク残存率の比較



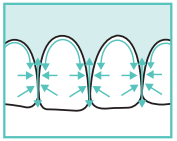
公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所調べ、2015年。

＊顎模型に人工プラークを塗布し、歯ブラシは荷重200gで20回、ワンタフトタイプブラシは100gで5回磨いた後、評価対象部位の人工プラーク残存率を比較。

歯間部：歯ブラシn=9、ワンタフトタイプブラシn=8
歯と歯ぐきの境目：歯ブラシn=7、ワンタフトタイプブラシn=7
歯ブラシ、ワンタフトタイプブラシは、ライオン株式会社製市販ブラシ

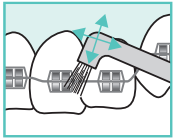
磨き残しがちでプラークコントロールが難しいリスク部位をonetuftでケア。

① 歯と歯ぐきの境目や歯間部



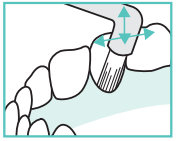
- 歯と歯ぐきの境目に毛先を当て、歯肉の形に沿って磨きます。
- 歯と歯の間に毛先を当てて、小刻みな往復運動で磨きます。

② 矯正ブラケット周辺部



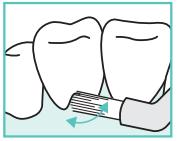
- 矯正ブラケットの周囲やワイヤーの下に毛先を入れて磨きます。

③ 歯周ポケット



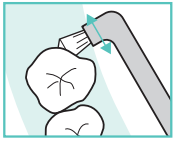
- onetuft Systemaの毛先を軽い力でポケットに入れ、小さく往復運動させます。

④ 根分岐部（歯根が一部露出している）



- onetuft Systemaの毛先でなぞるように動かします。

⑤ 最後臼歯遠心部（奥歯の奥）



- 毛束のカット面を当てて小刻みな往復運動で磨きます。

薬用成分配合のジェル歯磨剤と一緒にお使いになることをおすすめします。